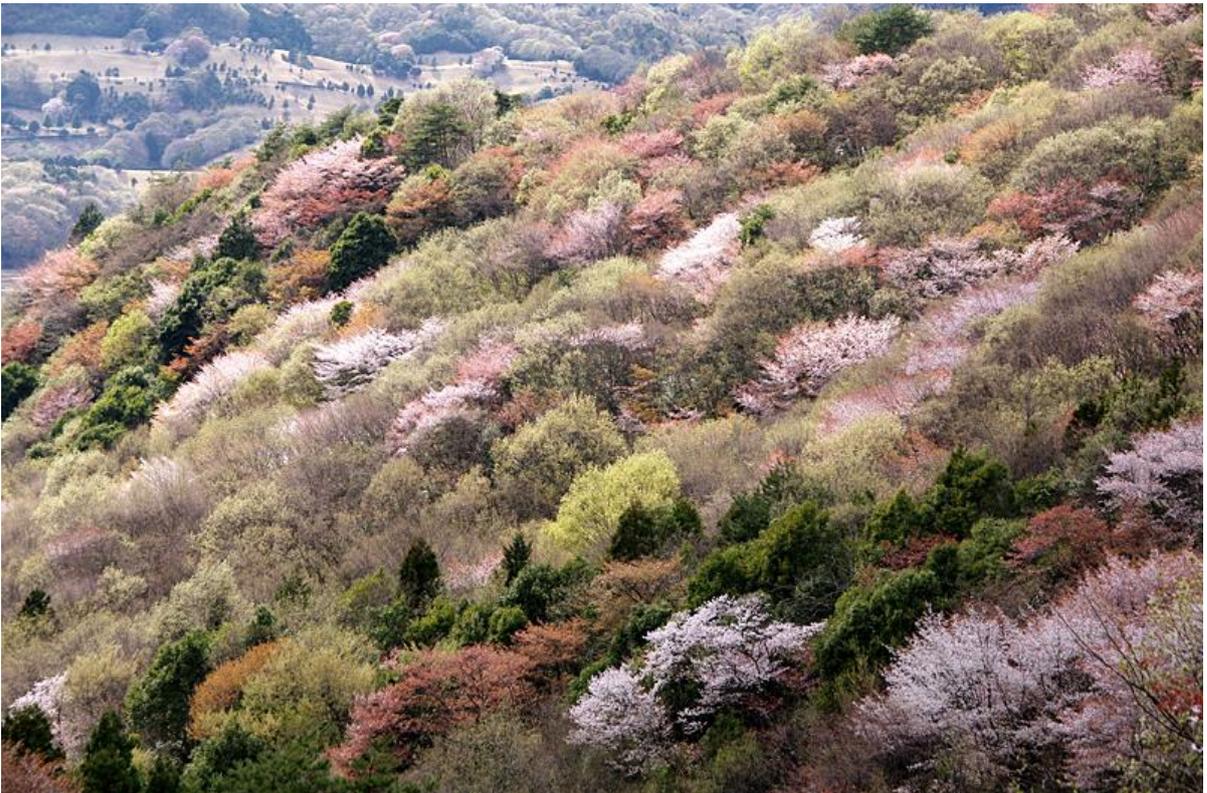


# 桜川市ヤマザクラ保全活用計画



## 「ヤマザクラ」の表記について

本来「ヤマザクラ」と表記する場合は、種としてのヤマザクラを示していますが、本計画では、上位計画である「桜川市第2次総合計画」における表記との整合性を重視し、桜川市に自生するヤマザクラとカスミザクラを含んだ言葉として用いています。

桜川市

## 目 次

1	計画策定の背景	1
2	計画の概要	2
	(1) 計画の目的	2
	(2) 計画の位置付け	2
	(3) 計画の範囲	2
	(4) 計画の期間	2
3	現状と課題	3
	(1) 名勝「櫻川」・天然記念物「桜川のサクラ」	3
	(2) 里山	3
	(3) 市民と郷土	4
4	基本理念と基本方針	5
	(1) 基本理念	5
	(2) 基本方針	5
	(3) 将来像	5
5	実施計画	6
	(1) 名勝・天然記念物のサクラ	6
	① サクラの種類調査	6
	② 保存樹の選定	6
	③ 樹木診断(初期診断・専門診断)	6
	④ 樹木植生活性度調査	6
	⑤ サクラの管理計画の策定	6
	⑥ 樹勢回復、植栽環境改善作業	6
	⑦ 後継樹の育成	6
	⑧ 基盤測量調査	6
	⑨ 保存活用計画の作成	7
	⑩ 景観改善作業	7
	⑪ 歴史、文化の継承	7
	名勝・天然記念物のサクラ関連事業	8
	(2) 里山	11
	① 里山保全モデル地区の選定	11
	② 里山整備の実施	11
	③ 里山の保全活用	11
	里山関連事業	12
	(3) 人材育成と普及啓発	13
	① 望まれる人材像	13
	② 人材育成と普及啓発の方針	13
	人材育成・普及啓発関連事業	14

(4) 情報発信 .....	16
① プロジェクトサイトの開設 .....	16
② 各種印刷物やニュースレターの発行 .....	16
③ インターネットツールの活用 .....	16
④ ヤマザクラや里山関連イベントの開催 .....	16
⑤ 情報発信拠点の活用 .....	16
⑥ 「ヤマザクラ」、「山桜」の使い方の統一 .....	16
情報発信関連事業 .....	17
<b>6 資料編</b> .....	<b>19</b>
資料Ⅰ 名勝「櫻川」・天然記念物「桜川のサクラ」の保全	
資料Ⅱ 里山の再生と山桜の景観づくり	
資料Ⅲ 「日本一のヤマザクラの里」を創り、育てる人材の育成	
資料Ⅳ 桜川市ヤマザクラ実施計画ロードマップ・桜川市保全活用計画ロードマップ	

# 1 計画策定の背景

桜川市は、吉野山と並び我が国でも最も古くから知られるサクラの名所です。

平安時代に紀貫之が歌に詠み(「後撰和歌集」、室町時代には世阿弥作謡曲「桜川」の舞台にもなっています。

江戸時代には、隅田川や玉川上水をはじめとする、江戸の花見の名所づくりのために、桜川より大量のサクラが移植されました。

しかし、明治以降、ソメイヨシノが全国に普及していくに従い、ヤマザクラの名所である桜川は世間の関心を失っていきました。

歴史あるサクラの名所は、幾度も衰退の危機を迎えますが、その度にこれを顕揚しようとする人たちの尽力があり、今日に引き継がれています。

桜川のサクラは、野生種のヤマザクラとカスミザクラで、ヤマザクラはソメイヨシノが普及するまで、日本を代表するサクラでした。

野生のサクラは、人間のように個体ごとに遺伝子が異なるため、花の色や形も多様で、それぞれが個性を持っています。

桜川には、学術的にも貴重で観賞価値の高いサクラが数多くあり、こうしたサクラの群植された桜川磯部稲村神社参道周辺は、大正 13 年に国指定名勝「桜川」として、更に昭和 49 年には域内のサクラが、「桜川のサクラ」として国の天然記念物にもなっています。

このような美しいサクラを育ててきたのが市内を取り囲む里山です。

江戸の花見の名所づくりのために、桜川から大量に運び出されたのも、里山に自生していたサクラであり、桜川の里山には万葉の時代から、都に評判が届くほどの素晴らしいサクラの群生があったと考えられます。

また、里山は古くから食料や燃料、木材などの自然資源や、水や空気の供給源として、地域の人達によって手入れをされ、利用されてきました。

こうした人と自然の相互作用を通じて形成された里山の自然環境は、サクラをはじめとする多様な生物の生息地として、また、農業や石材業、桜川らしい景観や伝統文化の基盤にもなってきました。

しかし、近年、産業構造や生活様式の変化、更には高齢化や人口減少により、里山に人の手が入らなくなり、管理放棄林や耕作放棄地が目立つようになってきました。

こうした経緯から、桜川市では貴重な地域資源であるサクラや里山を見直し、その価値を高め広く伝えることで、地域らしさを活かした暮らしづくりに繋げるため、ヤマザクラをシンボルに掲げ、まちづくりを進めています。

## 2 計画の概要

### (1) 計画の目的

歴史ある名勝地や天然記念物のサクラの再生と、ヤマザクラの自生する里山の保全活動を通し、日本を代表するヤマザクラの里に相応しい景観と自然環境を目指すことで、地域の活性化と、市民の郷土に対する誇りと愛着を育み、桜川らしい真に持続可能な暮らしづくりに繋げることを目的とします。

### (2) 計画の位置付け

本市では、市の最上位計画である桜川市第2次総合計画において、まちの将来像に「ヤマザクラと市民の幸せが咲くまち 桜川」を掲げるとともに、桜川市まち・ひと・しごと創生総合戦略でも、「農・ヤマザクラと共に自活し 繋がる暮らしづくり」をテーマに掲げています。

本計画は、これらを実現するための「ヤマザクラの里の再生」に関する基本理念、基本方針、実施計画を示すものです。

### (3) 計画の範囲

本計画が対象とする範囲は、桜川市全域とします。

但し、名勝・天然記念物のサクラについては、磯部地区の名勝・天然記念物指定地域と域内のサクラを指し、里山については、市内全域の里山を指すものとします。

### (4) 計画の期間

本計画の目標年次は2028年とします。

具体的な実施計画については、計画期間を3年間とし、実行委員会による定期的な進捗管理を行うとともに、計画を実効性のあるものとするため、目標年次や計画期間については、適宜見直しを行うこととします。

#### ※本計画における「里山」の定義

本計画において「里山」と表記する場合には、環境省のガイドラインに合わせ、『農林業などに伴うさまざまな人間の働きかけを通じて環境が形成・維持されてきた、原生的な自然と都市との中間に位置する、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域』を指すこととします。

### 3 現状と課題

#### (1) 名勝「櫻川」・天然記念物「桜川のサクラ」

##### <現状>

- サクラの多くは衰弱、過去 10 年間で 150 本以上の枯木が発生している。
- 文化財指定地と道路、電柱、建築物等の敷地境界の不明な部分がある。
- 道路管理によるサクラの根の損傷や、電柱、電線による生長阻害が発生している。
- ソメイヨシノを含む外来のサクラの植栽があり、地域固有のサクラとの交雑が発生している。
- 文化財であることから指定地域内での作業には制限がある。
- 「保存活用計画」作成のための基盤測量調査が始まった。(2019 年度終了予定)

##### <課題>

- 保存すべきサクラを特定し、早急な樹勢回復、後継樹を育成する必要がある。
- 外来のサクラやその交雑種を、本来あるべき地域固有のサクラに更新する必要がある。
- 後継樹の育成には、外来のサクラと交雑しないよう注意する必要がある。
- 景観の旧状回復には、住民の理解と長期的な取り組みが必要になる。
- 継続的な保全活動を担う個人、団体、専門家を確保する必要がある。
- 文化財指定地内の作業にあたっては、国や県との事前協議及び許可が必要となる。
- 円滑な管理が可能となるよう、「保存活用計画」を作成する必要がある。

#### (2) 里山

##### <現状>

- 管理放棄林や耕作放棄地が増加し、下草の繁茂やタケ類の侵入、ゴミの不法投棄など荒廃した地域が目立つ。
- 県や市が里山保全のための助成事業を用意し利用促進を図っているが、継続的な保全活動はほとんど行われていない。
- マツ枯れの蔓延により、高木となるアカマツが枯死することで、これまで以上にヤマザクラの群生が際立つようになった。

##### <課題>

- 管理の手が入らず放置されることで、里山の持つ公益的機能や生物多様性が失われる恐れがあり、地域の暮らしを守るためにも早急な対策が必要とされる。
- 放置されたまま植生の遷移が進むことで、将来的にヤマザクラやカスミザクラが減少していく可能性がある。
- 自生するヤマザクラを活かしながら、さまざまな落葉広葉樹が共生する、桜川らしい里山景観の整備手法を確立する必要がある。
- 里山のヤマザクラの価値を伝え、触れ合いを促進するための拠点を整備する必要がある。

### (3) 市民と郷土

#### <現状>

- 名勝・天然記念物のサクラに対する関心が低下し、地域住民との関係が希薄化している。
- エネルギー革命やライフスタイルの変化によって、里山が資源として利用されなくなった。
- 人口減少や高齢化による担い手の不足から、里山や農地の管理が困難になりつつある。
- 自然と触れ合う機会が少なくなり、環境に対する関心や理解が希薄になりつつある。
- 郷土に対する誇りや愛着が希薄になりつつある。

#### <課題>

- 名勝・天然記念物のサクラの価値を理解し、保存、活用、継承に関わる人材の育成が必要になる。
- 地域住民だけで里山を保全活用していくのは困難であり、保全活用に取り組む NPO や団体、企業等、多様な主体の参加を促し、活動を支援していく仕組みづくりが必要になる。
- 保全活用を促すためにも、里山の自然に触れ合う機会の創出や、環境学習など、里山やヤマザクラへの関心を高める工夫が必要になる。
- 「日本一のヤマザクラの里」のまちづくりに対する理解と関心を深める必要がある。

## 4 基本理念と基本方針

### (1) 基本理念

日本を代表するヤマザクラの里の再生  
～ 地域資源である里山やヤマザクラを再生し、その価値を高め、広く伝えることで、  
「日本一のヤマザクラの里」の景観と自然環境を創出する ～

### (2) 基本方針

- 名勝・天然記念物のサクラの保全
- 里山の保全
- 人材の育成

以上の 3 つを柱に、ヤマザクラと自然環境の保全を通して地域の課題解決につなげ、持続可能な桜川の暮らしを実現する。

### (3) 将来像

本計画の目標年次である 2028 年の桜川市の姿を以下の通り定めます。

#### 『日本を代表するヤマザクラの里の再生』

1. 名勝・天然記念物のサクラが健全に生育し、景観が再生されることで、桜川のサクラの価値と認知度が向上し、桜川固有のサクラとその歴史、文化に対する理解と愛着が市民に浸透している。
2. 桜川市のシンボルとして、里山のヤマザクラの景観が市民の誇りとなり、里山の環境に対する関心の高まりと、保全活用の動きが広がることで、桜川らしい美しい里山の景観や自然環境が守られている。
3. 「日本一のヤマザクラの里」のまちづくりが世代を問わず広く市民に浸透し、市民や団体、企業、行政、学校など様々な主体が、様々な形で保全活用に関わる緩やかなネットワークが形成されている。

## 5 実施計画

### (1) 名勝・天然記念物のサクラ

「日本一のヤマザクラの里」のまちづくりの歴史的、文化的な拠り所となる、名勝・天然記念物のサクラを再生し、最古のサクラの名所の価値を高め広く伝えとともに、後世に継承するため、以下の計画を実行します。

#### ① サクラの種類の調査

櫻川磯部稲村神社及び磯部桜川公園周辺のサクラの種類の調査を実施する。

#### ② 保存樹の選定

上記調査により桜川固有のサクラを特定し、保存樹を選定する。

#### ③ 樹木診断（初期診断・専門診断）

##### ・初期診断

茨城県立真壁高等学校との官学連携に関する協定の一環として、平成 28 年度から実施している文化財指定地内のヤマザクラの初期診断調査を継続実施する。

##### ・専門診断

初期診断の結果、専門診断が必要とされた樹木について、日本樹木医会茨城県支部等と連携し、専門診断を実施する。

#### ④ 樹木植生活性度調査

樹木の植生活性度調査を継続して実施する。

#### ⑤ サクラの管理計画の策定

上記調査の結果を踏まえ、樹勢回復や植栽環境の改善、サクラの景観整備のための管理計画を策定する。

#### ⑥ 樹勢回復、植栽環境改善作業

管理計画に基づく樹勢回復作業や植栽環境改善作業を実施する。

ソメイヨシノをはじめとする外来のサクラを、桜川固有のサクラに順次更新する。

#### ⑦ 後継樹の育成

サクラの種類調査の結果を踏まえ、後継樹の育成と管理を行う。

・特に貴重なサクラについては厳格な管理のもと、接ぎ木等により保存する。

・補植等に実生苗を用いる場合は、交雑の可能性の低い地域のものを利用する。

#### ⑧ 基盤測量調査

保存活用計画を作成するための基礎資料となる、基盤測量調査を実施する。

## ⑨ 保存活用計画の作成

文化庁では、文化財の保存、活用の考え方を明確にし、確実な継承を図るため「保存活用計画」の作成を推奨している。

「保存活用計画」を作成することで、所有者である桜川市が主体的に行うことのできる範囲が明確になることや、文化財の保存・管理の的確性を向上し、必要諸手続きなどをわかりやすくすること、保存・活用のために必要な事項等が所有者のみならず地域・行政にとっても目に見える形となり、支援強化が期待できることなどが考えられる。

### <目的>

管理団体、所有者その他の文化財保護行政に関わる利害関係者が、国指定文化財の保存及び活用に組織的に取り組むための共通事項を明示し、その保存や整備に関する将来的な方針を明らかにする。

### <策定主体と策定支援者>

- ・策定主体 桜川市
- ・策定支援者 国、茨城県

### <計画記載事項(必須事項)>

- ・文化財の基本情報
- ・文化財の保存管理活用の状況
- ・保存管理活用の基本方針
- ・文化財保護に係る諸手続き(現状変更等の考え方及びその適用区域等)
- ・名勝又は天然記念物の運営の体制

## ⑩ 景観改善作業

名勝・天然記念物に相応しい景観に復旧する。

- ・復旧作業の基礎となる基盤測量図を作成する。
- ・景観に悪影響を与え、サクラの生長の妨げとなる構造物や建築物の移動、撤去を進める。

## ⑪ 歴史、文化の継承

- ・「桜川のサクラ」に関する公的な資料の収集、整理を行う。
- ・「桜川のサクラ」に関する地域資料の調査、収集、整理を行う。
- ・資料の編纂等を行い現代の人に分かりやすく解説する。
- ・冊子の作成や展示等を行い普及啓発に努める。
- ・小中学校での学習会や、市民向け歴史教室等を開催し、歴史、文化の継承に努める。

## 名勝・天然記念物のサクラ関連事業

サクラの種類調査		着手時期：2018
内 容	①櫻川磯部稲村神社及び磯部桜川公園周辺のサクラの種類を調査 ②桜川固有のサクラの特定 ③外来のサクラとその交雑種の特定	
連携先	森林総合研究所、(一社)櫻川保勝会	
担当課	ヤマザクラ課	

保存樹の選定		着手時期：2018
内 容	①櫻川磯部稲村神社及び磯部桜川公園周辺のサクラの保存樹の選定 ②保全関係者の情報共有 ③サクラの管理用番号札の取り付け	
連携先	森林総合研究所、茨城県立真壁高等学校、(一社)櫻川保勝会	
担当課	ヤマザクラ課、生涯学習課、都市整備課	

樹木診断、活性度調査		着手時期：2018
内 容	①櫻川磯部稲村神社及び磯部桜川公園周辺のサクラの初期診断 ②初期診断の結果、専門診断が必要とされるサクラの専門家による診断 ③植生活性度調査の継続的な実施	
連携先	茨城県立真壁高等学校、日本樹木医会茨城県支部、(公財)日本花の会、(一社)櫻川保勝会	
担当課	ヤマザクラ課	

サクラ管理計画の策定		着手時期：2018
内 容	①サクラの樹勢回復、植栽環境改善、景観回復のための管理計画の作成 ②民間保全団体と連携した管理計画の作成	
連携先	(公財)日本花の会、日本樹木医会茨城県支部、(一社)櫻川保勝会	
担当課	ヤマザクラ課、都市整備課、生涯学習課	

樹勢回復、植栽環境改善、景観回復作業		着手時期：2019
内 容	①管理計画に基づく樹勢回復、植栽環境改善作業 ②名勝指定当時の景観への回復作業 ③民間保全団体との連携	
連携先	(公財)日本花の会、(一社)櫻川保勝会	
担当課	ヤマザクラ課、都市整備課、生涯学習課	

後継樹の育成		着手時期：2018
内 容	①貴重なサクラ、地域固有のサクラの後継樹育成 ②ヤマザクラの景観づくりのための植樹用苗木育成 ③苗畑の管理	
連携先	(公財)日本花の会、(一社)櫻川保勝会、市内小中学校 ほか	
担当課	ヤマザクラ課、学校教育課	

保存活用計画の作成		着手時期：2018
内 容	①保存活用計画作成のための基盤測量調査 ②名勝「櫻川」・天然記念物「桜川のサクラ」の保存活用計画作成	
連携先	文化庁、茨城県	
担当課	生涯学習課	

歴史、文化の継承		着手時期：2018
内 容	①国、県、市が保有する資料の収集、整理、保管 ②地域資料、伝承等の調査、収集、整理、保存 ③冊子の作成や展示等の実施による普及啓発 ④小中学校での学習会、市民向け歴史教室等の開催	
連携先	文化庁、茨城県、櫻川磯部稲村神社、磯部地区、(一社)櫻川保勝会ほか	
担当課	生涯学習課、ヤマザクラ課、学校教育課	

## (2) 里山

自生するヤマザクラを活かしながら、落葉広葉樹を中心に、多くの樹種からなる桜川らしい里山景観の保全と、環境を守るための多面的な機能や、生物多様性の高い森づくりを行うことを目指し、以下の計画を実施します。

### ①里山保全モデル地区の選定

市内すべての里山を管理することは困難であるため、モデル地区を選び、サクラが実生更新し、生物としても健全に生育できる管理手法を学びながら解明する。

### ②里山整備の実施

主体となる体制づくりと人材育成に取組み、既存の植生を活かした除間伐や、必要に応じた植樹をし、目的とする森林を育成する。

### ③里山の保全活用

多様な主体による多様な保全活用を促し、活動の拡大と活性化を図るためのネットワークを作る。

#### I 国・森林管理署との連携

- ・森林環境譲与税を活用した除間伐等の利活用
- ・国有林の利活用と整備計画への関わり
- ・「市町村森林整備計画」の活用
- ・「風景地保護協定制度」の活用

#### II 茨城県との連携

- ・森林湖沼環境税を活用した間伐事業等の利活用
- ・水郷筑波国定公園特別地域内での各種行為に関する連携

#### III 市民による保全活動

- ・市の里山保全支援事業の利活用促進
- ・ヤマザクラの景観を活かした里山保全手法の確立
- ・保全の手法を検証するための継続的なサクラのモニタリングの実施
- ・地域住民、市民、企業、NPO等多様な主体で支える仕組みづくり
- ・多様な主体、多様な保全活動を支える拠点の整備
- ・里山保全や間伐材の利活用につながる自然体験、環境教育の場の確保
- ・市内小中学生向けサクラの学習会や育成作業の実施

#### IV 団体、企業、NPO等との連携

- ・団体や企業、NPO等と保全活用への支援が必要な地域のマッチング
- ・森林レクリエーションや環境学習の場の提供
- ・企業の社会貢献事業の誘致、支援

## 里山関連事業

モデル地区の選定		着手時期：2019
内 容	下記の条件を満たす地区をモデル地区として選定 ①景観形成に効果的で、ヤマザクラの群生が認められる地区 ②地域住民の理解と協力が得られる地区 ③整備後も環境学習、森林レクリエーション等の利活用が可能な地区	
連携先	行政区、土地所有者、茨城森林管理署 ほか	
担当課	ヤマザクラ課、農林課、生活環境課	

初期整備		着手時期：2019
内 容	①モデル地区の植生調査と、育林計画の作成 ②森林環境税等を活用した除間伐の実施 ③市の支援事業を活用した下刈りとヤマザクラの植樹	
連携先	茨城県、茨城森林管理署、大学・研究機関、行政区、土地所有者 ほか	
担当課	ヤマザクラ課、農林課、生活環境課	

保全活用の体制づくり		着手時期：2019
内 容	①維持管理を行う主体の確保と、年間の管理計画作成 ②多様な主体に対する保全活動への参加呼び掛け ③保全を必要とする地域への企業、団体、NPO等の紹介 ④保全活用関係者のネットワーク化と拠点整備 ⑤モデル地区の植生の変化についてのモニタリングの実施	
連携先	行政区、土地所有者、市民、企業、専門家、NPO ほか	
担当課	ヤマザクラ課、農林課、生活環境課、生涯学習課、学校教育課、商工観光課	

### (3) 人材育成と普及啓発

名勝・天然記念物のサクラ、里山それぞれの保全活動に取り組むリーダーや専門的知識を持った人材の育成と、地域やテーマ、世代ごとに活動する人たちが緩やかにつながり協力し合うネットワークの形成とその拡大を図ることで、郷土への誇りや愛着を育みながら、自発的で継続性のある保全活用が図られることを目指し、以下の計画を実施します。

#### ① 望まれる人材像

- ・桜川市のサクラや自然に愛着と誇りを持つ人
- ・自然とともにある喜びを実感できる人
- ・桜川市のサクラや自然の価値を他者に伝え、共有できる人
- ・サクラをはじめとする自然資源を、地域づくりや仕事に活かせる人

#### ② 人材育成と普及啓発の方針

- ・活動に関わる人材の相互交流とネットワーク化  
地域やテーマ、世代など、保全活動に関わる多様な人材が、それぞれ主体的に活動しながら緩やかにつながり協力し合うネットワークを構築し、その拡大を図り、活動の輪を広げる。
- ・専門的知識を有する活動指導者の育成  
名勝・天然記念物のサクラについての歴史や里山のサクラの魅力を理解し、多くの人に伝えられる人材を育成する。  
桜川市の自然環境の素晴らしさと大切さを伝えられる人材を育成する。
- ・桜守の育成  
天然記念物のサクラや桜川市固有のサクラに精通し、これを守り育てる人材を育成する。
- ・次世代を担う人材の育成  
子どもたちへの環境教育や、自然と触れ合う機会を創出し、幼少期から地域や地域の自然に対する関心を高め、次世代を担う人材の育成に努める。
- ・保全活用に関わる多様な主体の育成  
自然観察会をはじめとする環境学習や森林レクリエーション等を開催し、サクラや里山の自然を大切にしようとする仲間を増やす。
- ・幅広い普及啓発  
ガイドや専門的知識を持ったリーダーによる来訪者とのふれあいを通じた普及啓発活動、講演会や展示会の開催、様々なメディアの活用等、それぞれの特性を活かしながら、幅広い普及啓発に努める。
- ・地場産業の振興、地域の活性化  
観光産業の確立や新たな産業の創出、地場産業である農業、石材業の需要の開拓等、地域の生業と結びつけた保全活用を図り、地域経済の発展と地域の課題解決に繋げる。

## 人材育成・普及啓発関連事業

名勝・天然記念物のサクラを守り伝える人材の育成		着手時期：2019
内 容	①桜守養成のための定期的な学習会、観察会等の開催、各種作業の実践 ②ガイド養成のためのマニュアル作成、学習会、開花期の観察会の開催 ③歴史、文化を継承するための歴史資料作成、定期的な勉強会、学習会、検定等の開催、展示会や講演会の開催	
連携先	市民、行政区、(一社)櫻川保勝会、サクラサクリプロジェクト、環境保護団体ほか	
担当課	ヤマザクラ課、生涯学習課、農林課、商工観光課	

里山を保全活用する人材の育成		着手時期：2019
内 容	①地域の担い手を育成するための支援事業の活用促進、保全活用マニュアル作成、企業、NPO等の紹介連携 ②保全活用を支援する市民やボランティア育成のための啓発活動、里山や里山製品の紹介、寄付の募集 ③保全活用のコーディネートを行う活動指導者育成のための、専門家・大学等の連携、勉強会、学習会、観察会等の開催	
連携先	市民、企業、NPO、自然保護・環境保護団体ほか	
担当課	生活環境課、生涯学習課、農林課、ヤマザクラ課、商工観光課	

次世代の担い手育成		着手時期：2018
内 容	①「桜川のサクラ」の歴史や文化に理解と知識を持つ子どもたちの育成のための学習会の開催、子ども向け学習冊子の作成、検定の実施 ②ヤマザクラの魅力を理解し、守り育てる子どもたちの育成のための種拾い、苗木育成、植樹、施肥等の実施、サクラについての学習会の開催 ③里山の保全や生物多様性の大切さを理解する子どもたちを育成するための学習会の開催、里山での環境学習、野外体験活動の実施	
連携先	市内小中学校	
担当課	ヤマザクラ課、学校教育課、生活環境課、生涯学習課、農林課	

保全活用に関わる多様な主体の育成		着手時期：2019
内 容	①専門家や研究者による環境学習会の開催 ②環境教育のための自然観察会、モニタリング調査等の実施 ③間伐、薪割り、森づくり体験等のイベント、ワークショップの開催 ④ハイキング、オリエンテーリング、ネイチャーゲーム等森林レクリエーションの開催	
連携先	小中学校、市民、企業、NPO、自然保護・環境保護団体ほか	
担当課	生活環境課、生涯学習課、農林課、ヤマザクラ課、商工観光課	

にぎわいと生業を創出する人材の育成		着手時期：2019
内 容	①「桜川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との連携 ②先進事例等を学ぶ研修会の開催 ③UI ターン支援、地域おこし協力隊との連携	
連携先	市民、地域おこし協力隊、雇用創造協議会、企業、NPO ほか	
担当課	ヤマザクラ課、農林課、商工観光課	

活動のネットワーク形成		着手時期：2020
内 容	①学習会や交流会の開催 ②市外団体との交流、連携 ③先進事例を学ぶ研修会の開催 ④情報提供や活動支援を行うサービス拠点の整備	
連携先	小中学校、行政区、市民、企業、NPO、自然保護・環境保護団体ほか	
担当課	ヤマザクラ課、生活環境課、農林課、商工観光課、学校教育課	

## (4) 情報発信

- ① プロジェクトサイトの開設
  - ・「桜川市の桜」や里山の魅力の発信
  - ・プロジェクトの概要、進捗状況やイベント情報等の発信
  - ・名勝、天然記念物の基本情報と開花情報の発信
- ② 各種印刷物やニュースレターの発行
  - ・「名勝・天然記念物の桜」の価値を広く伝えるパンフレット等の作成
  - ・里山の桜の魅力や里山の魅力を広く伝えるパンフレット、ポスター等の作成
  - ・里山保全の必要性を知らせるパンフレット等の作成
  - ・桜や里山についての情報を伝えるニュースレターの発行
  - ・ハイキング、サイクリング、ドライブ等交通手段別観光マップの作成
- ③ インターネットツールの活用
  - ・Facebook や twitter などの SNS を活用した情報発信
  - ・YouTube 等動画配信サイトでのプロモーション
- ④ ヤマザクラや里山関連イベントの開催
  - ・ヤマザクラの魅力を伝えるイベントの開催
  - ・「日本を代表するヤマザクラの里」を PR するためのイベントの開催
  - ・里山とのふれあいの場を提供するイベントの開催
- ⑤ 情報発信拠点の活用
  - ・道の駅、サービスエリア、観光施設等、情報発信拠点へのパンフレット等の設置
  - ・市内情報発信拠点の整備
- ⑥ 「ヤマザクラ」、「山桜」の使い方の統一  
混乱を回避するため、種としてのヤマザクラを指す場合は「ヤマザクラ」と表記し、カスミザクラを含める場合は「山桜」と表記するよう、使い方を統一する。

## 情報発信関連事業

プロジェクトサイトの開設		着手時期：2019
内 容	①サクラや里山の魅力を伝えるサイトの構築 ②保全活動情報や進捗状況、イベント等の情報を発信 ③市内観桜スポットの開花情報の発信	
連携先	保全活用団体、(一社)櫻川保勝会、サクラサクリプロジェクト、観光協会ほか	
担当課	商工観光課、ヤマザクラ課、生活環境課、農林課、生涯学習課、企画課	

各種印刷物・ニュースレターの発行		着手時期：2019
内 容	①サクラや里山の魅力を伝えるパンフレット等の制作 ②里山保全の必要性を伝えるパンフレット等の制作 ③保全活動やイベント等の情報を提供するニュースレターの定期発行 ④交通手段別の観光マップの制作	
連携先	観光協会、保全活用団体、(一社)櫻川保勝会ほか	
担当課	商工観光課、ヤマザクラ課、農林課、生活環境課、生涯学習課	

インターネットツールの活用		着手時期：2019
内 容	①Facebook や twitter など SNS を活用した情報発信 ②YouTube など動画配信サイトを活用したプロモーション	
連携先	観光協会、保全活用団体、地域おこし協力隊、(一社)櫻川保勝会、市民ほか	
担当課	商工観光課、ヤマザクラ課、農林課、生活環境課、生涯学習課	

イベントの開催		着手時期：2019
内 容	①サクラや里山の魅力を伝えるイベントの開催 ②サクラ開花期間中のイベントの開催 ③里山の保全活動体験や里山を活用したイベントの開催 ④環境学習や自然観察など自然と触れ合うイベントの開催	
連携先	観光協会、保全活用団体、市内小中学校、商工会、(一社)櫻川保勝会ほか	
担当課	商工観光課、ヤマザクラ課、生活環境課、農林課、生涯学習課、学校教育課	

情報発信拠点の活用		着手時期：2019
内 容	①道の駅、SA、観光施設等へのパンフレットの設置 ②県のアンテナショップや情報発信拠点、市内外の公共施設へのパンフレット等の設置 ③市内外の民間商業施設へのパンフレット等の設置 ④市内情報発信拠点の整備	
連携先	観光協会、茨城県、NEXCO、民間観光施設、商工会ほか	
担当課	商工観光課、ヤマザクラ課	

## 6 資料編

### 資料Ⅰ

#### 名勝「櫻川」・天然記念物「桜川のサクラ」の保全

～日本最古の桜の名所を次世代に継承する～

1. 名勝「櫻川」・天然記念物「桜川のサクラ」の現状
2. 山桜(カスミザクラ)の再生と保存
3. 桜川のサクラの歴史・文化の継承
4. 保存活用計画の作成
5. 景観改善作業の実施
6. 名勝・天然記念物のサクラ保全のイメージ

### 資料Ⅱ

#### 里山の再生と山桜の景観づくり

～山桜の景観を考慮した森林管理手法の確立～

1. 桜川市の里山の現状
2. 保全活用の必要性
3. 桜川市の目指す里山の景観

桜川市独自の里山整備管理手法の確立

1. 里山の整備
2. 里山の保全活用
3. 里山保全の推進体制イメージ

#### 【参考資料】

桜川市に自生するサクラの推定本数

### 資料Ⅲ

#### 「日本一のヤマザクラの里」を創り、育てる人材の育成

～誇りあるふるさと桜川の暮らしを守り伝える～

1. 名勝・天然記念物のサクラを守り伝える人材の育成
2. 里山を保全活用する人材の育成
3. 次世代を担う人材の育成
4. にぎわいと生業を創出する人材の育成
5. 活動のネットワーク形成

### 資料Ⅳ

#### 桜川市ヤマザクラ実施計画ロードマップ・桜川市ヤマザクラ保全活用計画ロードマップ

※桜川市ヤマザクラ保全活用計画 資料Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、保全活用に関わる人達が計画を実施する上で、行動の参考となるよう、本計画をより具体的に解説したものです。